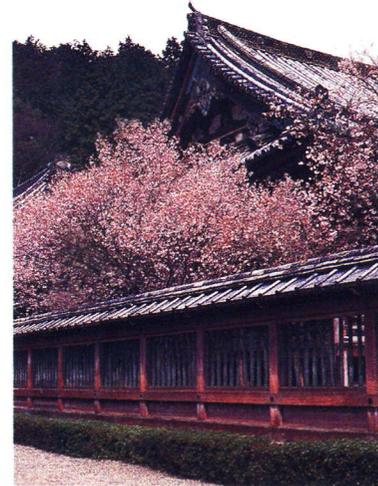




洛東山科
毘沙門堂門跡

B I S H A M O N D O T E M P L E



案内図



〒607-8003

京都市山科区安朱稲荷山町18

TEL・FAX=075(581)0328

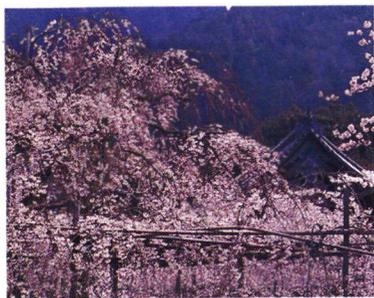
URL=<http://bishamon.or.jp/>

◎年中行事

- 初詣 元旦～三日
- 初寅 正月初寅の日とその前後を合わせた三日間
開運福笹のほか福引き甘酒の接待有り
- 初不動護摩供 一月二十八日午後二時
- 節分厄除け祈願 二月三日 豆まき有り
- 春季彼岸会法要 三月二十日もしくは二十一日
- 観桜会 四月八日に近い日曜日
- 地藏法要 六月二十四日
- 孟蘭盆会法要 八月十六日
- 地藏盆 八月二十四日
- 弁財天法要 九月初めの巴の日
- 秋季彼岸会法要 九月二十三日
- 開山会 九月三日
- 放生会 十月十八日
- 千灯会 十一月二十三日
- 除夜の鐘 十二月三十一日
- 朝粥会 毎月第一日曜日午前六時三十分
- 写経会 毎月第三日曜日午前十時～正午
- 縁日 毎月三日
- 毎日、午後二時より護摩祈願を奉修いたします



観音堂(晩翠園)



枝垂れ桜



勅使門



弁天堂

天台宗の門跡寺院 毘沙門堂

毘沙門堂は天台宗五箇室門跡のひとつで、高い寺格と鄙びた山寺の風情を伝える古刹である。ご本尊に京の七福神のひとつ毘沙門天を祀ることからこの名がある。

創建は大宝三年(七〇三)文武天皇の勅願で僧行基によって開かれた。当初は出雲路(上京区・御所の北方)にあったことから護法山出雲寺といった。その後、たび重なる戦乱から苦難の道をたどり、寛文五年(一六六五)、山科安朱の地に再建。後西天皇の皇子公弁法親王が入寺してより門跡寺院となった。伝教大師が唐より将来された鎮将夜叉法という行法は、天台五箇大法のひとつとして当門跡だけに伝わる秘法である。

ご本尊の毘沙門天は、天台宗の宗祖で比叡山を開かれた伝教大師のご自作で、延暦寺根本中堂のご本尊薬師如来の余材をもつて刻まれたと伝えられる。商売繁盛・家内安全にご利益があり、一月初寅参りには福笹が授与され善男善女で賑わう。

境内の諸堂は近世の門跡寺院特有の景観を伝える貴重な遺構であり、その多くが京都市の有形文化財に指定されている。山科盆地を見おろす山腹に位置し、春の桜、秋の紅葉は知る人ぞ知る京の名所でもある。

◎仁王門

寛文五年(一六六五)この地に再興された当時の建立。急峻な石段の上にある本堂への表門にあたり、阿吽の二天像が護る。

◎勅使門

後西天皇より拝領した檜皮葺きの総門。かつては陛下の行幸かその代参、現在は当門跡門主の晋山式以外は開門されない開かずの門。

◎本堂

梁行六間桁行五間、単層入母屋づくり。本尊は、伝教大師一刀三礼の作といわれる「毘沙門天」を安置する(秘仏)。寛文五年(一六六五)当山中興第二世の公海大僧正が、師・天海大僧正の遺志を受け継いで復興されている。

◎宸殿

御所にあった後西天皇の旧殿を、その第六皇子一品公弁親王が拝領し、元禄六年(一六九三)に移築した建物。

◎宸殿襖絵

宸殿内部の障壁画百十六面は、すべて狩野探幽の養子で駿河台派の始祖狩野益信の作。どの角度から見ても、鑑賞者が中心になるという逆遠近法の手法。

◎霊殿

阿弥陀如来を中央にして歴代の影像や位牌を安置している。元禄六年(一六九三)第三世公辨法親王の建立。

天井龍

天井の龍はこの霊殿の守護龍で、狩野永叔主信が画いたもの。眼の向きや顔が見る角度によって変化する。四角の雲の色彩を違えているのも特徴あるところ。

◎前庭の枝垂れ桜

宸殿前の枝垂れ桜は樹齢百数十年の巨木で、その枝張りは三十メートルにもおよぶ。満開時期は四月十日〜十五日あたり。

◎晩翠園

谷川の水を引き滝を造った江戸初期の回遊式庭園。「心字」の裏文字を形取った池に、亀石、千鳥石、座禅石などが配置された名園。

◎高台弁才天

太閤秀吉公の大政所高台尼公が大坂城内に祀っていたものを、庶民福楽を願って当寺に移した。またの名を不老弁才天といい、多くの人に信仰されている。

九老之間襖絵

天井龍

御成之間

